



中国 支社篇

時の音色に酔いしれて。

江戸時代の面影をそのままに

「鞆の浦」

1925年、国の名勝「鞆公園」に、1934年3月16日には国立公園として初の瀬戸内海国立公園となった鞆の浦には仙酔島、つじ島、皇后島、弁天島、玉津島、津軽島などの島々が含まれる。満潮時、干潮時に潮の流れが逆転することから、この鞆の浦の港は古代より「潮待ちの港」と呼ばれ、海運における要衝として繁栄した。福山市の港町、鞆には古い町並みが残り、1992年には都市景観100選に、2007年には美しい日本の歴史的風土100選に選ばれている。特筆すべきは、港や街並みに江戸時代の面影がそのままに残っていること。当時の港湾施設である常夜燈、雁木、波止場、焚場、船番所は現在もすべて残っており、また、江戸時代中後期の町絵図に描かれた街路も概ね現存。「当時の町絵図が現代の地図としても通用する」といわれるほど街並みに手が加えられておらず、現在では貴重な歴史探訪の地となっている。また、2008年公開されたアニメーション映画「崖の上のポニョ」で宮崎駿監督が長期にわたり滞在した地としても有名になり、歴史愛好家のみならず、幅広い層が訪れる観光スポットとなっている。



まるで江戸時代にタイムスリップしたかのような街並み

©福山観光コンベンション協会



仙酔島など海島を臨む座敷からの眺めは絶景のひとつ

眼前に広がる「日東第一形勝」

「福禅寺・對潮楼」

平安時代の天曆年間(947~957年)の創建と伝えられる真言宗の寺院「海岸山千手院福禅寺」。本堂に隣接する客殿「對潮楼」は江戸時代の元禄年間(1688~1704年)に創設され、仙酔島など海島の景勝を臨む座敷からの眺めはまさに絶景。風光明媚な鞆の浦にあり、現在でも屈指の観光スポットとなっている。正徳元年(1711年)には朝鮮通信使の迎賓館宿舎として用いられ、従事官の李邦彦はこれの景色を「日東第一形勝」と賞讃。さらに延享5年(1748年)には通信使の洪啓禧が客殿を對潮楼と命名した。對潮楼は江戸時代を通じて使節のための迎賓館として使用され、日本の漢学者や書家との文化交流の場となった。また、福禅寺はかの坂本龍馬の生涯においても重要な拠点である。慶応3年(1867年)4月23日、坂本龍馬率いる海援隊の「いろは丸」と紀州藩船「明光丸」が瀬戸内海の六島沖で衝突し、鞆の浦へ曳航される途中にいろは丸が沈没。この「いろは丸事件」発生にともない龍馬と紀州藩との間で行われた談判のなかで、第3回目交渉場所となったのが對潮楼であった。鴨居の下には若き日の龍馬の写真が掲げられており、幕末のヒーローとの深い縁が偲ばれる。

350年来続く健康酒の老舗

「岡本亀太郎本店」

保命酒は、万治2年(1659年)に大阪の漢方医であった中村吉兵衛氏によって、鞆の浦で醸されていた「吉備の旨酒」に16種の生薬を漬け込んでつくられた薬酒。その伝統の技を受け継いだのが、保命酒の生みの親である中村家と懇意にしていた岡本亀太郎であった。岡本家は江戸後期の安政2年(1855年)に清酒業を起し、明治後期に暖簾を下ろした中村家より道具一式を譲り受け保命酒の醸造に本格的に乗り出した。店内に鎮座する大きな龍も、創業時に中村家より譲り受けた由緒正しい看板である。岡本亀太郎本店の建物は、かつて福山城内にあった長屋門を譲り受けたもの。明治6年(1873年)に廃城となつた福山城内の建物の一部を船により運び現在の地に移設された。門扉や門構えは城内の長屋門としての形式を残しており、江戸時代初期の福山城郭内の遺構として貴重な建物であることから福山市の重要文化財に指定されている。鞆の浦の特産品である保命酒は、江戸時代に禁裏幕府への献上品となり、諸大名間の贈答用や参勤交代にも多く用いられた。ペリー提督が黒船とともに来航した際には、老中首座であり福山藩主でもあった阿部正弘公がペリーや初代領事ハリスらに幕府接待酒として保命酒をもてなしたと伝わる。



江戸時代より続く「保命酒」は鞆の浦を代表する土産品

妥協を許さない音を売る職人

「藤井琴製作所」

国内シェアの7割を占め、日本一の琴の生産地として知られる広島県福山市。この地に伝わる「福山琴」は、1985年に楽器として初めて伝統工芸品に指定された。昭和50年前後の最盛期には500人もの職人が腕を振るっていたものの、時代の移ろいとともに現在は50人ほどに。そのなかでも音色に徹底してこだわる職人として目置かれているのが藤井琴製作所の藤井善章さんである。「日本の楽器は、そもそも音を重視していなかったんです。琴の世界でも、あまり音色まで論じられることはなかった。装飾など見た目の美しさも大切だけれど、私は音色にこだわりたい。私は音を売っているんです」。質のいい材料を見立てるため、桐の産地である会津にまで足を運ぶこともあるという藤井さん。製法にも独自のこだわりがある。「昔の職人は、習ったことを忠実に守ってきました。でも、それじゃあ進歩がない。木の取り方、繰り方を試行錯誤して、私なりの作り方を編み出したんです。よそのものとは音の味、通りが違います。琴は「まっすぐな場所がひとつもない」ほど特殊な楽器であることから、工具もすべて自作。「つくりますぎちゃって使わない工具もたくさんあるんだ」と笑顔を見せる藤井さんの琴への愛情は、73歳を迎えた今も衰えることを知らない。



木目を引き立てる甲焼き。自らの魂を吹き込むかのよう

～ ミッション遂行の軌跡 ～

使えない日をゼロにしたエレベーターのリニューアル。
三菱電機の新たなる挑戦。

私たちの毎日に欠かせない社会インフラのひとつであるエレベーター。だからこそリニューアル工事での「使えない日（停止期間）を少なくする」を三菱電機は、つねに追い続けてきた。すでにエレモーション・プラスの基本仕様で連続休止約一週間という短工期を実現していたものの、技術者たちが目指したのは、さらなる高み。それが「使えない日を少なくする」から「使えない日をゼロにする」というリニューアルの新たなる挑戦だった。今までどのメーカーも成し得なかったミッションは、いかにして遂行されたのか。そんな、エレモーション・プラス[ゼロ]の開発秘話に迫る。



中国支社の木村圭佑がご案内します！
ビルシステム部 昇降機課



◎宮島「厳島神社」
広島市内にもたくさんある観光スポットがありますが、絶対に見逃せないのは宮島の厳島神社ではないでしょうか。平安時代の寝殿造りの様式を伝える日本屈指の名社で、1996年にはユネスコの世界文化遺産にも登録されています。今回はそんな厳島神社のなかでも、とくに注目のスポットを紹介しましょう！



◎大鳥居
主柱は樹齢5000〜6000年のクスノキの自然木。8代目にあたる現在の鳥居を建立する際には、巨木探しに20年近い歳月を要したといわれています。また、根元は海底に埋められています。



◎反橋
重要な祭事の際、天皇の遣いである勅使がこの橋を渡って本社内に入ったといわれる橋。現在の橋は、1557年に毛利元就・隆元父子によって再建されたものとのこと。ちなみに、あまりに勾配が大きくなるのができないため、実際に使うときは床板の上に仮設の階段が設けられたそうです。



広島名産の焼きがきも必食です！

イチオシ宮島グルメ
宮島でランチをするなら、落ち着いた雰囲気の中、ゆったり食事を楽しめる「みやじま食堂」さんがおすすめです。僕のイチオシは、「六子飯定食」（六子飯、漬物、小鉢、あさり汁）です！



お客様に喜んでいただける営業マンに！
僕は子供のころからずっとサッカーに夢中で、高校時代は大宮アルディージャのユースクラブに、大学時代は関東二部リーグの中央大学サッカー部でキャプテンをしていました。今も広島県の社会人リーグに所属し、平日も夜8時半から10時まで練習に打ち込んでいます。そんな僕が三菱電機に入社したのは2016年。まだまだ新人ですが、サッカーで鍛えた体力と根性でお客様に少しでも早く顔を覚えていただけるよう頑張っているところです。尊敬する先輩の田添さんがいつも口にするのは、「誠実に対応すれば、お客様は必ず付いてきてくださる」という言葉。それを信じて、1日も早くお客様から喜んでいただける営業マンになりたいと思います。

三菱電機中国支社

活力とゆとりある社会の実現に向けて。

中国支社は1949年に広島営業所を構えて以来、中国地方5県にまたがり幅広いお客様との信頼関係に支えられてきました。現在では岡山・山口支店、山陰・鳥取社会システム営業所と中国地方各県に営業網を構築し、地域に密着した営業活動を展開しています。これからも技術・サービス・創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献します。

広島県広島市中区中町7-32(ニッセイ広島ビル8F) TEL 082-248-5206

私たちにご相談ください！

- 中国地区：総代理店
- 広島・山口 三菱エレベーター株式会社 広島支店 TEL:082-567-0213
 - 広島 三光産業株式会社 TEL:082-245-3139
 - 岡山 株式会社メレック TEL:086-255-0346
 - 鳥根・鳥取 山陰三菱電機機器販売株式会社 TEL:0852-23-3333

- Information
- 福禅寺 広島県福山市朝町92-2 TEL 084-982-2705
 - 岡本亀太郎本店 広島県福山市朝町927-1 TEL 084-982-2126
 - 藤井琴製作所 広島県福山市朝町下岩成735-1 TEL 084-955-5895
 - 厳島神社 広島県廿日市市宮島町1-1 TEL 0829-44-2020
 - みやじま食堂 広島県廿日市市宮島町590 TEL 0829-44-0321

■ビルオーナーの切実なる想い

あらゆる機械と同じようにエレベーターにも寿命がある。定期的なメンテナンスをしても、設置から20年を過ぎるとリニューアルが求められ、その際には数日間にもわたり運行を止めての工事が発生するのだ。

現在、国内に設置されているエレベーターは約72万台といわれている。そのうち設置から25年が経過した当社製エレベーターは約5万台。2020年度には約9万台になると見込まれている。多くのエレベーターがリニューアルの時期を迎えるなかでビルやマンションのオーナーを悩ませているのは「リニューアルはしたいけれどエレベーターを使えなくなるのは困る」ということ。

そんなビルオーナーの悩みを解消するために立ち上がったプロジェクトが「エレベーターが使えない日をゼロにする」という、かつてないリニューアルの実現。それが、1990～1997年ごろにかけて約25000台製造し、まさに今リニューアルの時期を迎えている三菱エレベーター「GRANDEE(グランディ)」を対象としたエレモーションプラス「ゼロ」だ。

使えない日をゼロにすることとは、すなわち「作業をしていない時間帯はエレベーターを利用することができ」ということ。たとえば、マンションでは通勤や通学などの利用者が多い朝晩の時間帯、飲食テナントビルでは夕方夜の営業時間帯にエレベーターの利用を可能とするようなスケジューリングを組み、利用者の不便を大幅に軽減する。また、病院などエレベーターの連続休止期間を設けるのが難しい施設



ビルオーナー様からの
ご要望に応えるために。

三菱電機(株)
開発部 応用システム開発課
奥田 清治

では、利用者の少ない曜日に分散して工事を組むことも可能だ。

今回のプロジェクトの生い立ちについて、全体の取りまとめ役を担った応用システム開発課の奥田が口を開いた。「5年ほど前から「エレベーターを止めずにリニューアル工事をできないか」という話は、担当営業から開発部門に投げかけられていました。それほどリニューアルにもなるエレベーターの停止は、ビルオーナー様にとって切実な問題だったんです。複数のエレベーターがある建物であれば順番に工事を行うことで動線を保てますが、一台しかない建物の場合は動線を止めることになってしまいますからね。リニューアルを提案するとマンション管理組合等からの抵抗も大きかったと聞いています」。

■ソフト解析に半年以上を要して

具体的にプロジェクトが動き始めたのは2014年。最初に取り組んだのは、三菱電機が築き上げてきた既存の工法を組み替えることだった。現場における据付手順の開発に携わった三菱電機ビルテクノサービス昇降機保守事業本部の田中は、その苦労をこう振り返る。



作業後の安全点検も
毎日の必須条件でした。

三菱電機ビルテクノサービス(株)
昇降機保守事業本部
モダニゼーション生産統括部
田中 麦平

通信変換ソフトウェアがあれば万事解決というわけではない。ハードウェアの開発においても、通信面の障害が最初の課題となったという。

「通信はノイズに弱いので、それをふまえて実装しなければエラーが出てエレベーターが動きません。使用する通信システムが外的要因にどれだけ弱いかを検討し、実機試験で検証。ダメだったらやり直しという試行錯誤を繰り返しました。万があつてはならないので、ノイズに関しては念入りに設計しています」。こう話すのは、ハードウェア開発課の竹井。通信の問題はクリアしたものの、実装面においてはこんな課題が浮上したという。

「通信変換ソフトウェアを搭載する基板などを、リニューアルで従来から使用している制御盤に実装する作業は、さながらパズルのようでした。特に、制御盤内の部品を動かさずに新たな部品を実装しなければならず、それがより一層作業を難しくさせました」。制御盤内の部品を動かしてはならない理由とは――。

「標準的な位置にある部品を動かすと、保守性に影響が出てしまうからです。ここにあるはずのものがない

「工法で最も苦慮したのは、今まで数日にわたり連続停止して工事をしていたものを、一日一日工事が終わるたびにエレベーターを使える状態に戻さなければならぬということ。つまり、一日ごとに作業を完結しなければならぬのです。そのために、エレベーターの取替手順を分解して、ジグソーパズルのように組み替える必要がありました」。さらに、こう続ける。

「たとえば、交換する機器が1から10まであるとします。連続して5日間止めても、1日ごとに作業を完結しても、すべてを交換し終えた最終形は同じです。しかし、それらを1から順番に変えていくだけでは、毎日使える状態にすることができません。そこで、1日目は既存の機器を利用して、2と7の機器を交換、2日目は2と7の機器を交換というように、新旧の機器を併用しながらの工事が求められました。そして、三菱のエレベーターとして安全に使っていただけける状態が保たれているかの点検も毎日欠かすことができません。そうであれば、お客様へ「安心してお乗りください」とは言えませんからね」。

田中の言う「新旧の機器を併用し

というのは、保守担当者にとって大きな問題になる。たとえば、遮断器の場所を変えただけでも現場ではパニックになるでしょう。それにとまらぬメンテナンスマニュアルの変更も発生します。いちばん簡単なのはリニューアルで従来から使用している制御盤はそのままに新たな部品を外付けすることで、そうするとコストがかさむ。コスト面を考慮しても、制御盤内に実装することがパストだったのです」。

通信のノイズ対策や工法に応じた実装、さらには保守性の維持という難題を乗り越え、ハイブリッド制御盤はようやく完成に至った。

■後輩たちに伝えていくべきも

毎日使える状態に戻しながら工事を進める「1日完結型の工法」と新旧の機器を並行して制御する「ハイブリッド制御盤」により、使えない日をゼロにしたエレモーションプラス「ゼロ」。奥田はこのリニューアルにおける画期的な新製品開発が、三菱電機にさまざまな収穫をもたらしたという。「私はずっとリニューアルに携わって来たにもかかわらず、これまで現場の



制御盤への実装は、
さながらパズルのよう。

三菱電機(株)
開発部 ハードウェア開発課
竹井 亮

ことはよく知らなかったのかもかもしれません。今回は竹井さんと何度も工事現場に足を運び、据付について学ばせていただきました。新製品は、機能・性能ばかりでなく、据付やその後の保守までも視野に入れて開発しなければなりません。私のなかで強く思いました。開発側の我々が、より現場に目を向けるきっかけとなった今回のプロジェクトは、リニューアルのみならず新機種の開発においても大きな一歩になったと確信しています」。

奥田の言葉に竹井が頷く。「エレベーターは20～30年先を見越して開発しなければいけません。さらに、その先のリニューアルをも考慮した製品開発が必要なのではないかと感じています」。

ハイブリッド制御盤の心臓部を手がけた町田の視線は、早くも次なる開発に向けられている。「過去の製品を紐解いていった今回の開発で、三菱電機の安全や品質に関する思想は昔から洗練されていたことを実感することができました。お客様の希望を叶えたエレモーションプラス「ゼロ」はグランディ以外の機種にも広がっていくのですし、そのときには今回の知見が必ず役に立つと思っています」。

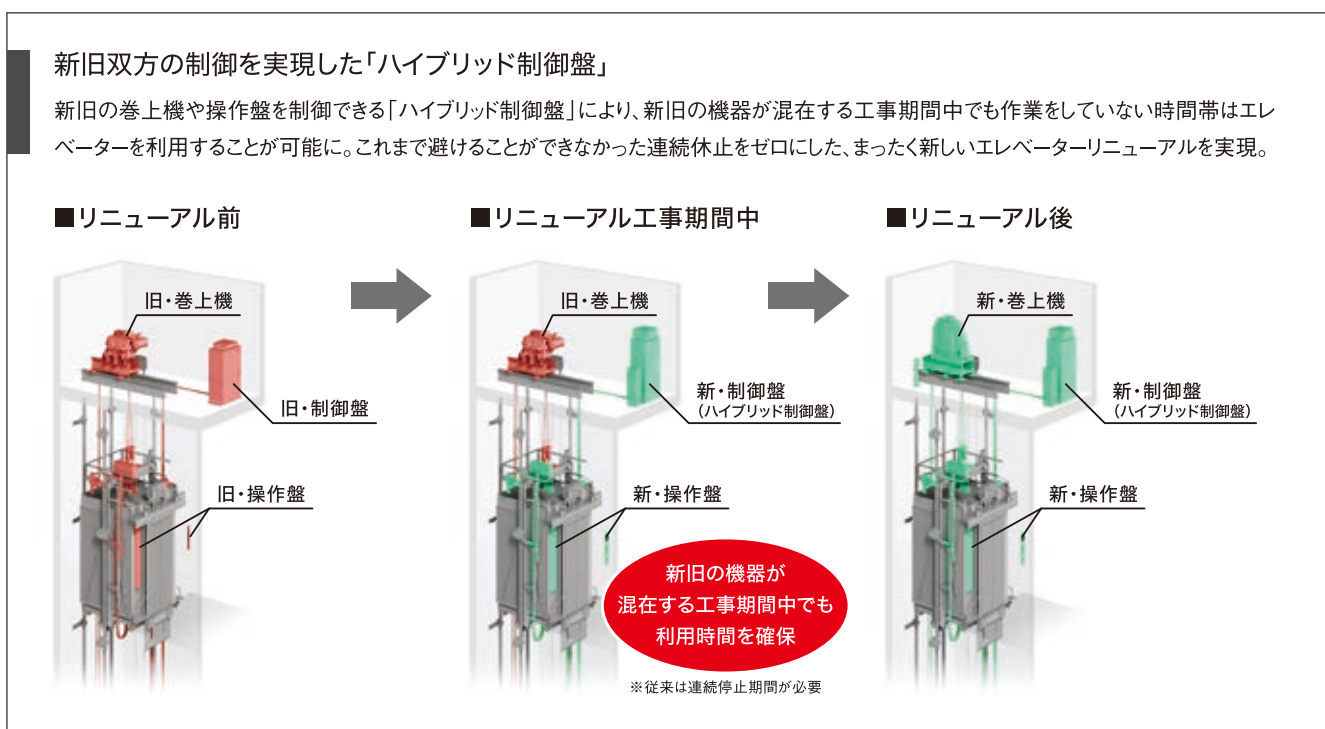


グランディ以外の
機種にも広がっていくもの。

三菱電機(株)
開発部 管理システム開発課
町田 幸喜

これまで新機種の開発においてリニューアルを考慮することは少なかったのですが、その叩き台を我々の世代がつくり、後輩たちに伝えていくべきなのかもしれません」。

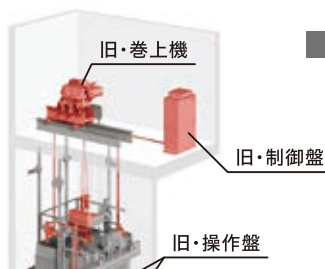
田中は当プロジェクトのこのような一面に胸を張る。「今回のプロジェクトは、営業がお客様からの意見を吸い上げて開発に結びつきました。一般的に企業はポリウムゾーンを追いかけ小さいニーズを軽視する傾向にあるなか、必要であれば小さな声にも応えていこうという姿勢が三菱ならではの強みです。今後も現場と開発が一体となった総合力で、皆様にご満足いただけるものを提供し続けることが我々の使命と考えています」。



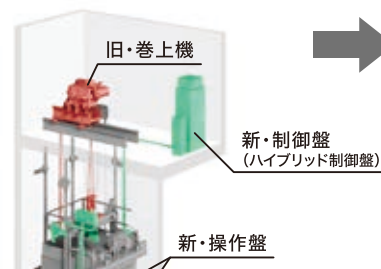
新旧双方の制御を実現した「ハイブリッド制御盤」

新旧の巻上機や操作盤を制御できる「ハイブリッド制御盤」により、新旧の機器が混在する工事期間中でも作業をしていない時間帯はエレベーターを利用することが可能に。これまで避けることができなかった連続休止をゼロにした、まったく新しいエレベーターリニューアルを実現。

■リニューアル前



■リニューアル工事期間中



■リニューアル後



新旧の機器が
混在する工事期間中でも
利用時間を確保

※従来は連続休止期間が必要

三菱エレベーター自慢の安全性を実物大のモックアップで体感!

写真左は、かご内の出入口上部に設けられたLED表示灯がドアの開閉動作前や戸閉動作中に赤く点滅し、ドアの動きをわかりやすく知らせることで引き込まれないよう注意喚起する「ドアシグナル」。写真右は、リモートメンテナンス契約「ELE-FIRST-i」で利用できる防犯カメラリアルタイム解析サービス「モーションサーチ」を紹介するモックアップ。乗るときも、乗ったあとも、安心・安全を提供する三菱エレベーターならではの機能です。なお、エレモーション・プラスによるリニューアルで、地震で休止したエレベーターを自動で診断、異常がなければ復旧させる「エレクイック」と、緊急時に情報センターの受信員を表示して不安を和らげる「安心ディスプレイ」に対応できるとのこと。さらなる「安心・安全」がリニューアル後のメンテナンスによって得られるわけですね。



中からも外からも、ドアシグナルの効果を体感確認することが可能

取材を終えて

「エレベーターが使えない日をゼロにする」というエレモーション・プラス[ゼロ]の価値。この誌面で、そのすべてを伝えきれないことをもどかしく感じますが、間違いなくこれからの社会に欠かせないサービスになるだろうと実感。大澤さんも「今までは約一週間という工事期間のなかでやりくりしていた作業を1日単位で区切らなければならない。初めてのことで、現場の苦勞は計り知れません。しかしエレベーターのリニューアルでは、やがてこの方式が一般的になると確信しています」と話してくれました。現代社会においてエレベーターは水や電気、ガスなどと同じように「毎日使えて当たり前」の社会インフラのひとつです。それだけに、リニューアル工事中も毎日使うことのできるエレモーション・プラス[ゼロ]は革新的なもので、その裏側にある努力と苦勞に感謝を忘れてはいけなと感じた取材班でした。

エレベーターの新しい発見を求めて、三菱電機ビルテクノサービス「M's station」へ!

今回の「ele取材班がゆく!」は、三菱電機ビルテクノサービスのショールーム「M's station」を訪問。三菱電機ビルテクノサービス昇降機保守事業本部モダンゼーション推進室の大澤晃平さんに昇降機コーナーをご案内いただきながら最新の展示を取材するとともに、今号の「ミッション遂行の軌跡」のテーマとなったエレモーション・プラス[ゼロ]についてもご紹介いただきました。



今回ご案内いただいたモダンゼーション推進室の大澤晃平さん

エレモーション・プラスの機能を視覚的にデモンストレーション

M's stationの昇降機コーナーへ足を踏み入れて真っ先に目に飛び込んでくるのが、3Dのような映像が目まぐるしく移り変わる不思議な形のモニター「Elemobi(エレモビ)」。あるときはエレベーターのかご室を、またあるときはビル全体をイメージさせるこの展示物は、エレモーション・プラスの多彩な安全機能などを視覚的にデモンストレーションするものでした。もともとは展示会などのブースで目立つように制作されたものとのことですが、たしかに誰もが足を止めることでしょう。



不思議な音と映像の世界に、取材班も思わず見入ってしまいます

操作盤のデザインも千差万別意匠面も進化し続けるエレベーター

壁一面にズラリと設置されているのは、かご操作盤や乗場ボタン、乗場位置表示器などのサンプル。建物のタイプ(マンション、オフィス、病院など)やデザインの好みに合わせて、お選びいただくためのコーナーです。大澤さん曰く「ボタンの発光色はオレンジ色、白、青とありますが、いちばん採用されているのは視認性の高いオレンジ色です。また、病院や介護施設などでは大きめのボタンが好まれる傾向にあります」とのこと。どこへ行っても違和感なくエレベーターを操作できるのは、場所に応じた操作盤が選ばれているからなのかもしれませんね。

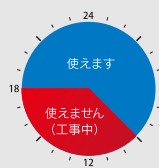


いつも何気なく触れている操作盤にも、こんないろいろなタイプが

使えない日をゼロにしたエレベーターリニューアル

Elemotion+[®]

エレモーション・プラス [ゼロ]

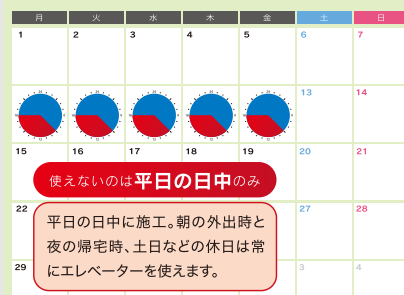


マンションや病院、事務所ビルなど、毎日乗るエレベーターだから、使えない日があると困る方はたくさんいらっしゃいます。エレモーション・プラス[ゼロ]は、お使いになる方のことを第一に考えて、工事期間中でもエレベーターを毎日動かすことを実現。使えない日をゼロにした、三菱電機ビルテクノサービスの画期的なエレベーターリニューアルです。



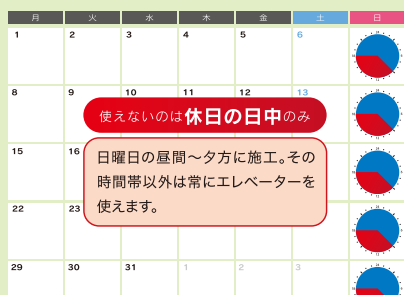
従来のリニューアルでは...
工事中は完全停止
日中も夜間も使えません

CASE 1 住人の外出・帰宅時や休日に使いたい、
マンションに



使えないのは平日の日中のみ
平日の日中に施工。朝の外出時と夜の帰宅時、土日などの休日は常にエレベーターを使えます。

CASE 2 休診日以外はいつも使いたい、
病院に



使えないのは休日の日中のみ
日曜日の昼間〜夕方に施工。その時間帯以外は常にエレベーターを使えます。

CASE 3 ビジネスパーソンの出勤〜退勤時に使いたい、
事務所ビルに



使えないのは土日の日中のみ
土日などの休日の昼間〜夕方に施工。平日は常にエレベーターを使えます。

※工事時間と時間帯は一例です ※工程表の例(Motion-1の場合)

居心地よく安心して乗れるエレベーターの条件とは

では、一般の方々はエレベーターに何を求めているのでしょうか。「居心地よく安心して乗れるエレベーター」について質問したところ「エレベーターが清潔できれい」が65.4%、「乗り心地が良い(スムーズに静かに昇降して揺れない)」が58.0%、「災害時に対応する機能(地震や停電時の対応など)が明記されている」が48.9%となり、古さを感じる部分、不安を感じる部分にびたりとリンクする結果となりました。「清潔感」「スムーズな乗り心地」「災害時の安全性」は、エレベーターにとって永遠のテーマといえるでしょう。



メンテナンス会社の緊急連絡先などが明記されている

エレベーターが清潔できれい

乗り心地が良い

地震や停電時の対応などが明記されている

エレベーターのデザインが新しい

エレベーターのかご室内にも空調が入っている

エレベーターの速度が速い

乗り場で操作ボタンを押すと、早く来るエレベーターのサインが出る

エレベーターの扉に窓ガラスがついている

知っているメンテナンス会社が管理している

エレベーターのかご室内が福祉用仕様になっている

液晶画面がついており、映像やニュースなどが流れている

音声で使用方法や注意がガイダンスされている

エレベーターガールが同乗している

BGMが流れている

すべての人が、もっと安心して乗れるエレベーターへ

Q エレベーターを安心して使用するために搭載してほしい機能は?

Answer	比率	実数
停電時でも照明が落ちず、自動的に最寄り階に停止し扉を開ける機能	61.1%	611
エレベーターの耐震化	54.6%	546
大きく揺れる本震(S波)の数秒前に地震を感知し自動的に最寄り階に停止する機能	52.6%	526
犯罪を未然に防ぐ防犯カメラの設置	52.0%	520
火災発生時、エレベーターを避難階へ直行させる機能	51.2%	512
エレベーターのかご室内で不審者が暴れた場合、画像を自動解析して最寄り階に停止し、扉を開ける機能	43.7%	437
利用者の動きをセンサーが感知し、閉まりかけたドアを開く機能	36.1%	361
かご内の警報ボタンを押すとブザーが鳴動し、各階強制停止運転を行なう機能	35.2%	352
その他	0.6%	6
とくに機能は必要ない	7.5%	75

最後に「エレベーターを安全・安心に使用するために搭載してほしい機能」を全員に複数回答で質問したところ、「停電時でも照明が落ちず、自動的に最寄り階に停止し扉を開ける機能」が61.1%、「エレベーターの耐震化」が54.6%、「大きく揺れる本震の数秒前に地震を感知し自動的に最寄り階に停止する機能」が52.6%と、災害時の安全性に集中する結果となりました。三菱電機はこの声を真摯に受け止め、これからのエレベーターリニューアル工事、新製品づくりに活かしていきたいと考えます。

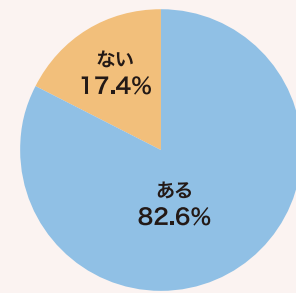
古くなったエレベーター、あなたはどのように感じていますか?

「ミッション遂行の軌跡」でも特集した通り、エレベーターは設置から20~25年でリニューアルの時期を迎え、安心・安全かつ快適に利用するには全面的な刷新が求められます。そこで、全国で約24万台のエレベーターの保守・管理を行っている三菱電機ビルテクノサービスが、1000人の成人男女を対象にエレベーターのリニューアルに関する意識調査を実施。その興味深い調査結果を紹介します。

Q あなたが「このエレベーターは古いな」と感じた点は?

Answer	比率	実数
エレベーターのかご室内や扉・操作盤(ボタン)のデザイン性に明らかに古さを感じる	49.3%	493
エレベーターの昇降中、あるいは到着時に揺れや振動を感じる	47.3%	473
エレベーターのかご室内に汚れやキズ、落書きがある	43.3%	433
エレベーターの操作盤(ボタン)が汚れている、擦れて数字が見づらい(焦げている)	41.2%	412
エレベーターのかご室内の照明が暗い	39.5%	395
エレベーターの昇降スピードが遅い	32.6%	326
エレベーターの昇降中に異音が発生している	28.1%	281
エレベーターが着いた際、エレベーターの床と目的階の床に段差が大きい	21.2%	212
エレベーターのかご室内で異臭を感じる	19.8%	198
その他	1.4%	14
古いなと感じたことはない	8.1%	81

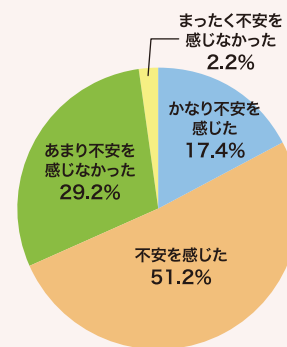
ビルやマンションにおける縦の交通機関として、広く普及しているエレベーター。現在、三菱電機の製品だけでなく、リニューアル時期を迎えているエレベーターは全国に約5万台あり、今回のアンケートでも「このエレベーターは古いな」と感じたことのある方は82.6%に達していることがわかりました。その理由としては「エレベーターのかご室内や扉・操作盤のデザイン性に明らかに古さを感じる」「エレベーターの昇降中、あるいは到着時に揺れや振動を感じる」



「エレベーターのかご室内に汚れやキズ、落書きがある」「エレベーターの操作盤が汚れている、擦れて数字が見づらい」などが上位に。この結果から、主に目に見える部分や乗り心地への不満が伺えます。

Q 古いエレベーターにどのような不安を感じましたか?

Answer	比率	実数
途中で止まってしまいそう	72.8%	413
地震や停電などで閉じ込められそう	52.9%	300
すごく揺れそう	33.0%	187
乗降中に扉に挟まれそう	17.1%	97
途中で不審者が乗ってきそう	10.4%	59
その他	3.5%	20



さらに、エレベーターに古さを感じた経験のある826人に「不安を感じたかどうか」という質問をしたところ、「かなり不安を感じた」方が17.4%、「不安を感じた」方は51.2%となり、過半数を大きく上回る68.6%の方が何らかの不安を感じたことがわかりました。では「かなり不安を感じた」「不安を感じた」を選んだ567名の方は、どのような不安を感じているのか。複数回答で質問したところ「途中で止まってしまいそう」が72.8%でトップ。続いて「地震や停電などで閉じ込められそう」が52.9%、「すごく揺れそう」が33.0%という結果になり、地震や故障などで動かなくなってしまう、長時間閉じ込められてしまうことへの恐怖に集中しました。

「古さを感じる人の68.6%は「不安」も感じている

